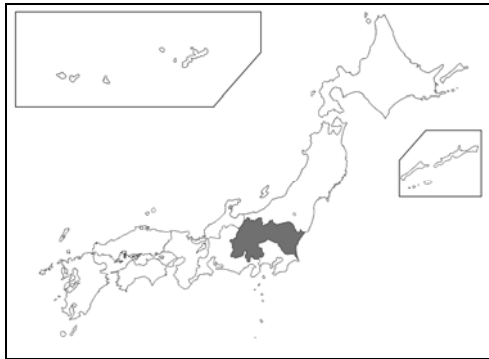


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

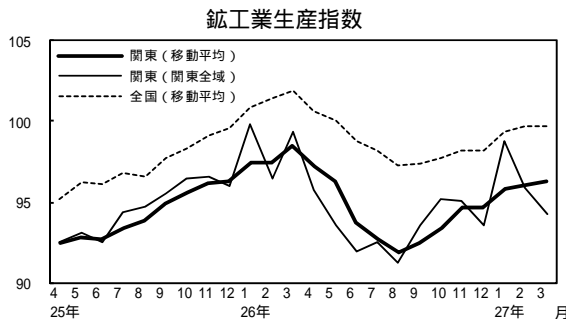
前回調査からの主要変更点

なし

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は北米を中心に海外向けの生産が引き続き好調だったこと等で増加。電気機械は一般用タービン発電機等を中心に減少。生産用機械はフラットパネル・ディスプレイ製造装置や半導体製造装置等を中心に増加。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	18.6	2.3	5.6	7.2	2.2	1.9
化学	15.1	4.1	-	3.4	2.6	-
電気機械	9.3	5.1	1.2	6.8	5.8	9.0
情報通信機械	6.2	0.3	2.6	3.0	3.5	11.6
生産用機械	6.1	4.0	8.8	14.2	2.5	0.6
鉱工業	100.0	2.4	1.8	5.7	2.9	1.7

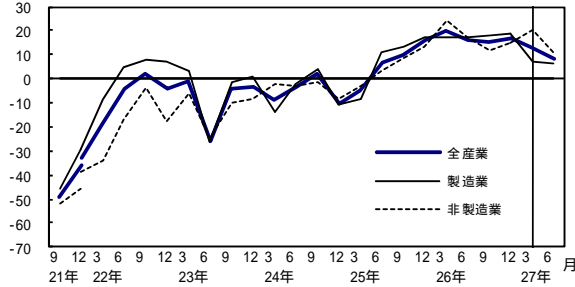
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期、3月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

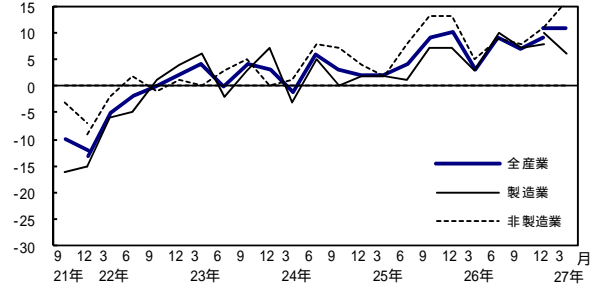
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



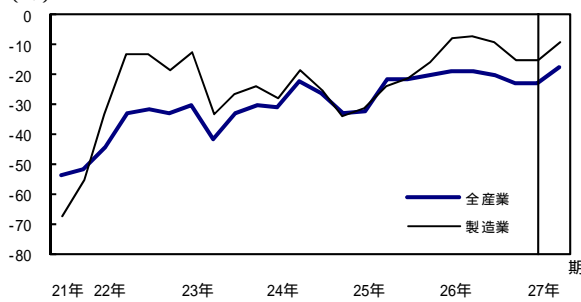
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。  
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行前橋支店管内。

(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



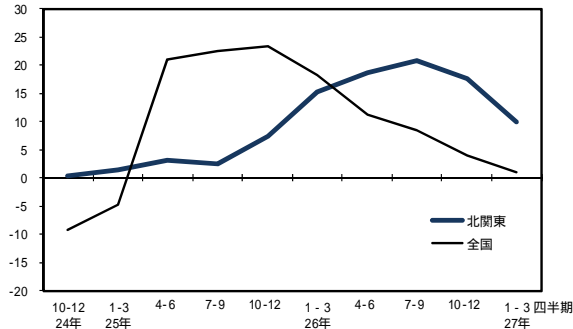
(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月) [企業動向関連 (現状)]

「特装車両、特にコンクリートミキサー車は、ここ2年フル生産が続いており今後も続く見通しである (金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費 (前年同期比) の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	1.0 (1.8)	9.1
製造業	12.2 ( 0.9)	13.4
非製造業	22.4 (8.6)	0.9

(備考) ( )は前回 (12月) 調査比修正率。

日本銀行前橋支店管内

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.9%減、2月は同2.0%増、3月は同0.6%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、「身の回り品」、「家庭用品」等が不調だったことから、前年を下回った。

2月は、「家庭用品」、「衣料品」等の動きが良かったことから前年を上回った。3月は、時計・

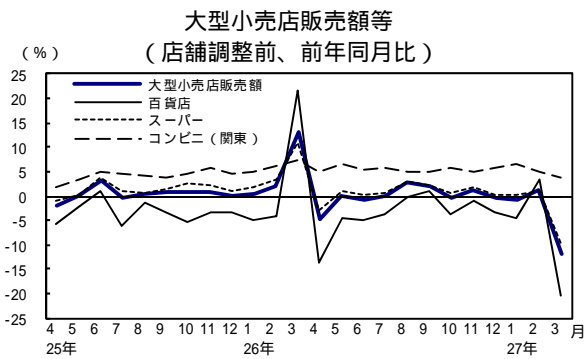
宝飾品などの「その他の商品」や、「家庭用品」等が不調であったことから、前年を下回った。

スーパーは、「その他の商品」、「家庭用品」等が不調であったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北関東地域の家計動向関連DIは、51.1となり前月より4.0ポイント上昇した。

「4月に入り、来客数の戻りが見えている。これは北陸新幹線延伸開通に伴う好影響に、名刹のご開帳といった好条件が重なったため、商業的にプラスに働いている (スーパー)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。



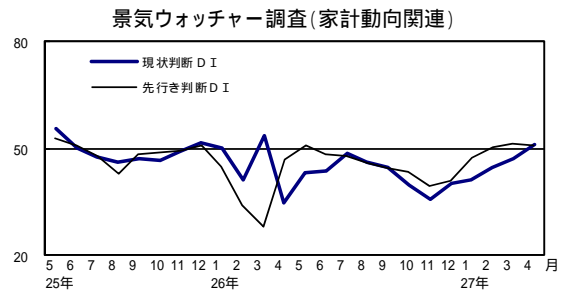
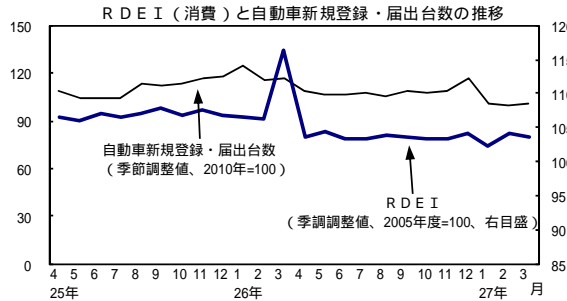
	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.3	1.9	2.0	0.6
大型小売店 (*2)	4.3	0.6	1.2	11.9
百貨店 (*2)	9.1	4.6	3.5	20.2
スーパー (*2)	3.2	0.3	0.8	9.7
コンビニ (*2)	5.1	6.4	5.1	3.8
乗用車 (*3)	14.6	20.2	13.9	11.4
(季節調整値) (*3)	9.7	13.5	0.9	0.9

(備考) 1. 季節調整済前期 (月) 比 (%)

2. 店舗調整前、前年同 (月) 期比 (新潟、静岡を含む)

コンビニは、関東全域

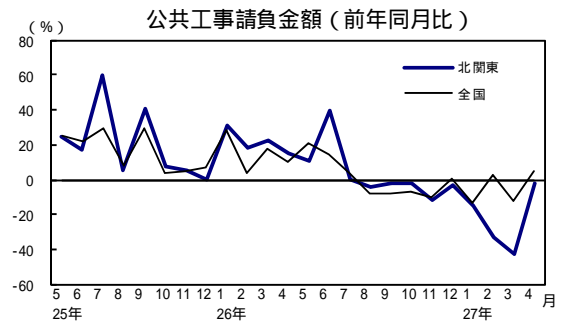
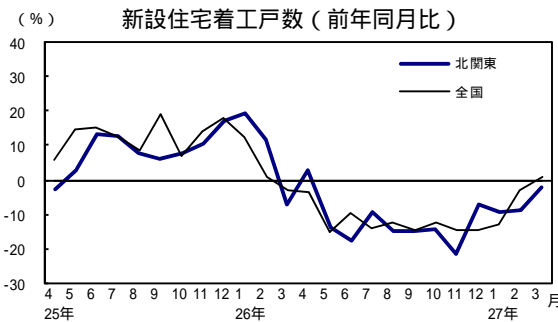
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月) 比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

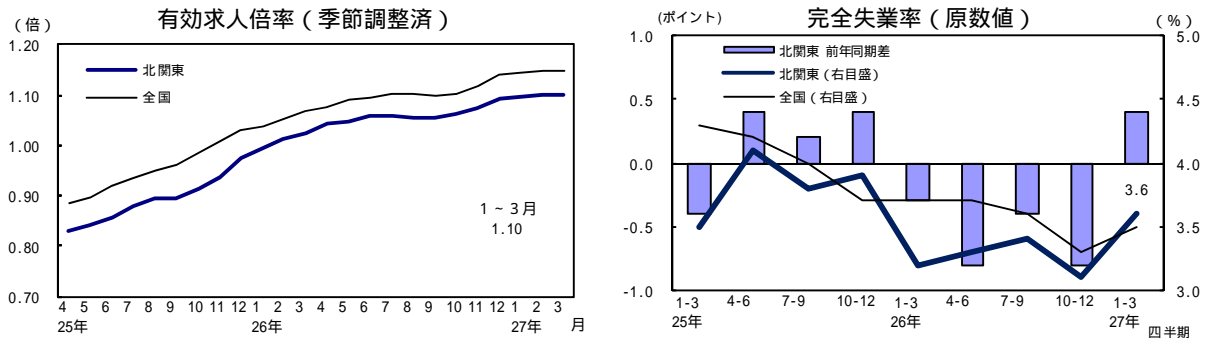


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

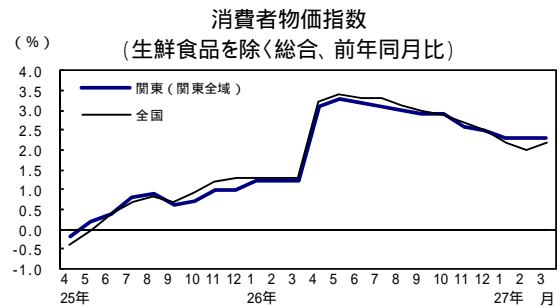
「名刹のご開帳、北陸新幹線延伸効果により小売業、宿泊業、サービス業を中心に大幅に求人数が増えている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に上昇している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	117	154	141	146	33
(前年比)	18.8	18.5	4.4	29.2	19.5
負債総額	237	309	228	529	41
(前年比)	32.2	6.8	1.0	156.7	63.1



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・円安効果で、東南アジア、中国からの来県者の増加が目立っている。それに伴ってワインの出荷量も前年比約10%程度伸びている (食料品製造業)

<先行き>

- ・大河ドラマの話題が取り上げられるに従い、ムードが盛り上がってくる (商店街)

